



あしざわ
芦澤 秀典
(明和)

教 育
産業振興

富士宮市内の小学校、中学校におけるカス タマーハラスメントについて

問 市内の小中学校におけるカスハラの実態把握について。

教育長 市内34校を対象。昨年度から本年度のこれまでに42件。対応した回数の総計は261回、1回の対応に要した平均時間は71分。中には1つの学校での対応件数が7件、対応回数が90回以上で、その対応に要した時間総計115時間にも及んだ例もある。

問 市独自のカスハラ対策指針の策定について。

教育長 現在、市教育委員会としては、対策指針というよりも対応マニュアルの作成を目指している段階である。具体的には、富士宮市校長会において、学校現場の実情も考慮した富士宮

市小中学校カスハラ対応マニュアルの作成を手がけている。

市長 カスハラについては、教育総合会議の立場からも捨てておけない問題。場合によっては受け皿のセンターみたいなものをつくって、専門的な部署としてそういう対応をしていく。先生方の負担を少しでも軽減させていかなければなければならない。



宿泊費補助制度について

問 宿泊費補助によって観光客の滞在を促進し、地域経済の活性化につなげることについて、市の見解を伺う。

部長 来年度においては、観光客の動向やニーズを調査分析し、宿泊費補助制度ほか全国で行われている旅行支援や独自割引などについて、費用対効果と照らし合わせながら調査研究していきたいと考えている。



さ の
佐野 和也
(明和)

消 防
危機管理
都市整備

富士宮市の森林火災に対する対応について

問 ハザードマップ的なものの作成など、山火事に対する計画等はあるのか。

部長 ハザードマップ的なものは作成されていない。林野火災は発生原因のほとんどが人為的要因によるものとされており、富士宮市火災予防条例においても火災発生のおそれや紛らわしい行為等に対して届け出をするように義務付けている。総務省消防庁において消防活動を支援するシステムを令和8年度中をめどに開発するとのことなので、その完成を待ち当市においても活用方法について検討していく。

問 どの段階で避難所を開設するのか。

部長 一概に基準は設けておらず、その都度災害対策本部で消防本部と情報共有を行い、火災の規模や状況に応じて市民の安全確保を最優先

とした避難情報の発令及び、避難所の選定や開設の判断をする。



市長 警戒区域、市域が広く難しい問題だと思うが、火が移ったら重大問題になってしまうということ。じっくりとしっかりと考えていく必要はあるなと思っている。

市内の観光シーズンの交通渋滞対策について

問 新東名高速道路のスマートインターの設置を提案する。



部長 市内の通過区間は内房区間と、山本・高原・貫戸区間の2か所であり、内房区間はほとんどがトンネルと高架橋なので地形的に設置できないと考えられる。山本・高原・貫戸区間は、一部切通し区間があるものの新東名高速道路から既設道路までの高低差が15メートルから30メートル程度以上あり、地形的にも技術的にも困難と考えられる。またインターチェンジの設置には平均20億円程度の事業費と広大な用地の取得や、既設道路へのアクセス道路新設も必要となり設置は難しいと考えられる。